

平成 23 年度 すぎなみ大人塾（昼）コース

第一回：ガイダンス「だかしや楽佼って、何なの？」

学習支援者：松田道雄 東北芸術工科大学教授・着想家

補助者：谷原博子 フリーアナウンサー・地域コーディネーター

平成 23 年 6 月 13 日（水） 10:00～12:00

会場：セシオン杉並 於

中曽根：おはようございます。杉並区教育委員会事務局の社会教育スポーツ課で社会教育主事をやっております、中曽根と申します。この杉並大人塾は平成 17 年度から始まり、7 年目に入っております。3 回から 4 回ほどで終わるような短い講座というのは結構あるのですが、約 20 回、1 年間通して行う講座というのは少ないかと思うのですが、この大人塾は毎年 20 回、それも昼コースと夜コースということで、開催をしております。なぜこれほど長く、20 回もやるのか、というところも大人塾の特徴のひとつかと思っております。いわゆる講座というものは、講師がいて生徒が話を聞くという講義型のプログラムが多いのですが、この大人塾では相互学習という形のプログラムを行っています。集まったメンバーが相互に学び合うという形式です。そういったところから、何かをこちらで決めて皆さんに頼む、こちらでお話しして、皆さんにただそれを聞いて帰ってもらう、ただそれだけではない、つまりそれだけ時間がかかる、ひとつの事を決めていくためにもしかすると 2 回講座の時間をかけて皆で決めていくということもあるかもしれません。そういう意味で、大人の学習ですので、わたしたちひとりひとりがすでにいろいろな経験や知識それとだがしやふうにいけば技や特技を、そのようなことからお互いにそれを出し合い、お互いに学び合うということを大事にしていきたいと思っております。今までの講義型のプログラムに慣れている方は少しまどろっこしいと思うこともあるかもしれません。ある調査によると、人の話を聞いたとき、良い話だと思ったとしても、それがどのくらい残っていくものなのかというと、5%とだそうです。聞いたときは 100%聞いて、良い話だと思っても、1 週間、2 週間たてば、5%ぐらい、ワンフレーズ残っているぐらいということなのだそうです。しかし皆で何かしたという体験の場合は、5 割近く残っているということです。皆で何かをした、話したということが、自分の中に残っている要素としては非常に大きい。さらに学んだことを誰かに伝える、外に向けて発信していくというのは、まさに今回の昼コースのテーマのひとつです。外に向けて発信すると、さらにそれは自分のものに確かなものとして残っていく。そのようなことが言われておりますので、ぜひ皆でワイワイやりながら、この部屋の中というだけではなく、商店街などいろいろな場所に出て行き、自分たちの学んだことを出していくということで、開かれた学習にしていけたら素晴らしいと思っております。

谷原：ありがとうございました。打ち上げを楽しくとありましたが、皆さんは来年の3月3日土曜日が合同発表会となりまして、夜コース昼コース共にセンターの学んだ制度を利用しようといったことを行います。実は打ち上げという話では、昨年の学んだ方々が、ちょうど打ち上げをしようかといったときは3月11日でした。本当にこれからのこの数ヶ月でいろいろな考え方も変わってしまったり、また皆さんの生活、そして地域のあり方みたいなものも考えさせられました。来年の3月、これからちょうど1年後という形になりますので、1年後皆さんがどの到達点まで目標に向かえるかということのを少し念頭に置きながら、活動をしていただけたらと思っております。そのお手伝いをさせていただきますスタッフを紹介させていただきます。それでは社会教育センターの松坂さんの方からよろしいですか。

松坂：皆さんおはようございます。社会教育センター事務局の松坂と申します。よろしくお願いいいたします。大人塾は今年で3年目になりますけれども、こちらの昼コース夜コース両方を担当していますので、よろしくお願いいいたします。杉並区には、私は住んで、学校に行き、勤めて、40数年間杉並にどっぷり使っております、その割にはまだまだ杉並の良いところ、知らないところなどがたくさんあります。今回、阿佐ヶ谷の七夕に関連するハリボテを作ったりとか、いろいろなことをやりますけれども、杉並にも、高円寺では阿波踊りもありますし、最近では荻窪だと音楽祭をやったり、西荻だとアンティークのショップだとかいろいろな個性のある街が増えてきています。そういったまだまだ知らない杉並のいろいろな地域を一緒に巡ったり発見したりとかしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

川上：皆さんおはようございます。大人塾昼コース担当の川上と申します。先程の松坂さんは両コース担当ということなのですが、私は主に昼コースを担当させていただいております。松田先生と谷原さんとだがしや楽校という形でこの講座を行って来て今年で3年目になります。これまでの2年間の中で、受講生の方から感動させられた言葉がございまして、昨年の方は、自分は何が楽しいのか、自分は何をしているときが一番楽しめるのかということを見聞されたという話をされておりました。その話をされている時のその方の顔がとても輝いていて、すごく印象に残っています。そういった自分は何をしているときが楽しいのだろうということを皆さんで話し合いながらこの1年間で見つけていただけたら、そして自分が楽しいと思うことをやっている瞬間の皆様の姿を見させていただけたら、私はとても嬉しいと思っております。1年間どうぞよろしくお願いいいたします。

谷原：続いて夜コースのマドンナと呼ばれています。湊さんです。よろしくお願いいいたします。

湊：おはようございます。私は、大人塾が初めて開催されてからずっと夜コースを担当させていただいております、湊と申します。よろしくお願いいいたします。昼の方はお手伝いさせていただきながら、昼と夜とではコースの内容が少し違うと思いつながりながらやっていたのですが、こここのところ地域づくりやつながりづくりということできずいぶん近くなっておりますので、今年はぜひ昼コースと夜コースが混ざり合いながら、もっとつながりを多く作っていったら良いと思い、昼コースの方にも参加させていただいて、皆様と一緒に楽しく学んでいきたいと思っております。よろしくお願いいいたします。趣味は、病院通いです。休みの度に病院に行っておりまして、こう見えて割りと体が弱いということをおっしゃっているのですが誰も同情してくれません。今日も目の周りが少しただれてしまひすごく荒れてしまひ、これはだてメガネで変装しているのではなくて、髪の毛でかゆくならないようにメガネをしておりますので、また今度お会いした時には違う顔になっているかもしれせんけれども、そういった具合に楽しくやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

谷原：そしてわたくし谷原と申します。松田先生の邪魔にならないよう、しゃべり過ぎない程度のアシスタントを行っていきたくと思ひます。それではメインの松田先生が到着されました。コースの説明等を含めてよろしくお願いいいたします。

松田：おはようございます。松田と申します。2年間ほど杉並区の高千穂大学におりまして、その時に中曽根さんの方から、学生さんだけでなく大人の講座でもやったらいいではないかというお話をいただきました。そんなに難しい教授が話す講座ではなくて、もっと生活に密着した話です。

単にフラワーアレンジメント講座とかお料理教室のように先生というのがきちんといて、その一生徒という役割ではありません。目的は、僕らの関わりがなかったとしても、皆さん自身が楽しみを見つけ、皆さん自身で人生を豊かにしていくということ。その人生の豊かさのひとつの手掛かりとして、コミュニティがあります。つながりから生まれる人生の豊かさや楽しさを、1年間一緒に模索しながら、作っていきましょう。

私は4月からまた山形に戻って、東北芸術工科大学で教えています。肩書きは美術科の教員です。周りの先生方は皆絵描きなのですが、私はまったく美術家ではありません。単に絵を描くということではなくて、いろいろな意味での人間の創造性とか創意工夫というのをアートというものにして、それらを社会にいかす方法を教えています。社会とアートを結びつけるって、どういうことでしょうか？皆さんならいかがなさいます？

例えばコーヒーをいれますよね。コーヒーは、コーヒー豆のお湯を通した、下のその液体化されたところだけが、300円も400円もするわけです。上の方はほとんどもうゴミですよ。もったいない世界ですよ。飲むのには、薄くなってしまっておいしくないということで捨てるわけですよ。飲み物としてみなければいいわけですよ。最終的には土の養分になればいいかもしれないですけども、その前の段階で、それを画材にできないかということを考えました。水墨画ならぬコーヒー画ですよ。そしてこれを実際にいろいろなメーカー、チェーン店とかにメールで流したところ、群馬県の高崎にあるコーヒーチェーン店から「大変関心があるから出来たら連絡をください」と連絡をいただいたのです。では材料を提供してくださいと言いました。そうしたらコーヒーを入れた残りが送られてきて、それでこれを描いたのです。このように描くことは、そのようなコーヒーチェーン店でもできるし、場合によってはどこでもできるし、場合によってはその喫茶店でコーヒーの出し殻を使ったワークショップもできるわけですよ。お家でもこういった残り物でこのようにすてきな絵が描けますよ、と教えることができるわけです。そういうことができる学生は、それで社会の役に立てる、そして少しはお代も頂けるかもしれないのです。ポイントは他に別の企業を組んで、画材として商品化するということです。

昨年度の講座で横浜にある会社の社長さんに来ていただきました。これは三陸のホタテです。ホタテの貝殻を砕いてカルシウム、それに口になめても大丈夫な着色料で画材を作ったらどうかと。あと、これは終わったらゴミ箱ではなくて、畑に捨ててくださいと。これはカルシウムですから、そのまま園芸の肥料などに使えます。三陸で養殖されたカキの中身だけを我々は食べますが、貝殻はゴミですよ。全部砕けば、素晴らしいカルシウムをくれるのです。

我々はどうしても頭の中でもう凝り固まっていて、学校でこういうふうに習うと、今度就活をして会社に入ればマニュアルでこうすべきだとされます。お料理ですと食材はスーパーの総菜を買うのが当たり前ですとか、固定観念が多すぎるのです。ものを書くにはテーブルがないと駄目だとか、座るにもきちんといすを用意してくれないと困るだとか。ですが少し発想を変えればいろいろなことが自分たちで、もしかしたらありあわせのことで出来るかもしれないわけですよ。

だがしや楽校を始めたのは、駄菓子屋さんにあったような価値、地域社会の様相ですね。ここのメンバーの皆さんはご出身がいろいろと違ってらっしゃるでしょう。皆さんの人生経験も違うわけですし、世代も違います。ここで僕一人が話すばかりではなんともむなしなことですよ。皆さん自身がたくさんの経験をお持ちですから、それをお互いに語り合ったり教え合ったり学び合ったり、尚かつ、生産で自分の得意な持ち味をいかし、生産的なことを見いだしていけたなら楽しいのではないかと思うのですが、いかがでしょう。自分

のこれからの人生をさらに豊かにするためだけでしたら、どこか有料のセラピーで充分です。皆さんは杉並というすてきな街に住んでいるわけですから。ですから自分の豊かさや楽しさの実感が杉並の皆さんのためにもなるということになりつつ、次の世代にも社会作りや考え方、在り方というものを残していき、役立てる。そういうことがこの一連の講座で生まれたらどうかと思います。

ちょうどがしや楽校の研究で出たときに、「おばあちゃん仮説」というのがアメリカの学会でありまして。地球上のほとんどの生き物は子孫を産むと死んでしまいます。なぜかという、それで生きていられると子供の食べる分がなくなってしまうからです。ですから子孫を残したら親は死ぬ、これがまず鉄則となります。種の生存。ところが人とある三種類ほどの生き物だけが子供を残してから長生きします。それが特に女性は顕著です。今でもそれがなぜかというのが、この学説です。結局人間の子供は、赤ちゃんが生まれて育てるのはお母さんだけでは大変でして、結局子育てが終わった世代がなんらかの形で自分の孫、直接の孫だけでなく、なんらかの形で間接的にも社会を維持するために関わっている。そのために長生きできるのだと、もしくは長生きしなければならないのだと、逆に言うと他の動物たちと同じように子供を産んですぐに亡くなってしまおうようでは、人という存在は成り立たないという学説だそうです。この説について賛否両論はいろいろあるとは思いますが、それはまた後ほどに。そう考えるとこれからますます高齢化する。それと女性がこれからの主役となる。それまでの生産世代のだいたい60代までの人口では男性が主役。ですからこれからは皆さん遠慮なせずに、皆さんなりの有り様や文化をどんどん発揮されてはいかがかと思います。まずはざっとこんなところですが、いかがでしょうか。そして、今日これでわかったではなくて、それを1年間一緒に考えていきましょう。

今回はそういったことですので講座のやり方としてぜひ提案したいのが、この二時間の時間の枠の中だけで解決するとは思われないでください。目的は皆さんの終了された後のコミュニティの生活ですから、杉並の地域生活で、この講座をどう生かすかということです。今日早速からでもどの方とお知り合いになってお付き合いになってもいいわけですよ。ランチ食べに行こうということでも良いし、そういった具合にこの時間前後を超えたお付き合いがあるのもいいことではないでしょうか。そのときに、もしメールとか何かなどが難しい、要するにデジタル化などもいかすというのもすごくいいです。そのときに「あ、私これパソコン苦手だ」という方がもしいらっしゃれば、できる方がいるわけですから、どうしてもわからない方は川上さんに訊いていただければ川上さんはバッチリです。お互いに教え合うのがまずひとつです。あともうひとつは、こちらの方で何かしてくれるのだろう、とただ単に指をくわえてこの場に訪れるのではなく、皆さん自身も何かを持ってきました。そしてここで創造的に自分の持ってきたものを新たに転用したり、もしくは人様におすそ分けしたり、というようなことで何かを生み出していきましょう。ですから、

持ってくるものは何でも構いません。お話のネタでも何でも構いません。ただ、基本的にはまったく手ぶらで来て受動的に過ごす講座ではないということです。

山形の地元の公民館でも実験的に「おしゃべり手芸」をやってみました。集まった皆さん方は、僕が手芸の先生なのだと思われていました。昨日一昨日の土曜日が2回目だったのです。1ヶ月がたってそうしたら人数が倍に増えたのですよ。倍に増えて、今のような趣旨を述べました。「僕は手芸の先生ではありません。ただ皆さんそれぞれの、手芸といっても編み物だけではなくて、手を動かして行う、自分の持ち味ということにしましょう。それぞれ自分ができそうなものを持ってきて、何もないならそれでも構いません、持ってきて、小さなテーブルを作り人付き合いを深めていきましょう。手を動かしながら人付き合い、口を動かして人付き合いを深める。口を動かしながら手を動かして生産的なことをする、この両方を緩やかにやる会にしていきましょう。全体のなんとなくふわっとした進行などは最初に僕の方でやっていきます」というように言いました。

まずランダムにジャンケンをして、まったく初めての方と自由におしゃべりをしていただきます。それから、自分はこんなことに感心があるとかを発表して、それでは今度はその関心ごとに、編み物をしたい方、洋裁に興味のある方、他のことなど、関心ごとにテーブルに別れ、またこれもおしゃべりしていただく。皆さん非常に満足してくださいました。この講座でも、皆さんの持ち味が、皆さんという存在が、どんどん広がって行って良いのです。そういった不思議なコミュニティになったら良いと思うのですが、いかがでしょう。

ここから世田谷区の講座の打ち合わせに行きまして参ります。今の社会、杉並区でも隣同士の地域の付き合いがなかなか大変なのかもしれません。これは近代社会をそのまま象徴していますよね。それぞれが働きに行く場所と住む場所と、強制的に分かれています。ですから区としても隣同士はそれほど交流がなくなってしまうのです。ぜひ皆さん方もご関心がある方、一緒に行きましょう。それから都市と地方の交流ですね。いろいろな交流の仕方がこれからどんどん生まれるのだらうと思います。

今日は僕からおすそ分けです。何もわざわざお店から買うようなものではないものです。お互いに皆さんにお分けしたいような、あの人にあの講座のときに何か提供をしたいとかそういう気持ちが大事なのです。僕も今回その農家の畑を借りているところで、そのおじいさんから「豆植えたか、白菜植えたか」といろいろ言われまして、「いや、まだ」と言ったら「これ、もってけ」と言われました。自分が種から育てたその余剰分です。自分の人生の余剰分です。それをお互いに分け合うのはいかがでしょうか。

私はこんなことをしたいといことがあれば、今度は僕がそれを持って南に行ったり、栃木

県の下野市、あそこの地区でも下野大人塾講座というのがあります。あとは山形でもやっていますので、皆さん組み合わせるとができますよね。あと今日これは、オクラ、ありますよね。オクラで、赤いオクラというのはご存知ですか。その種をいただいて参りました。もしかして一粒から芽が出ればこれをどんどん増やすことができればと思います。かつて、じゃがいもやコーヒーが大陸を越えて伝わり取り入れられたのと同じように、小さな貝殻でもお互いにおすそわけし合えば楽しいですよ。ですので、いろいろなアイディアをどんどん生産的にしていきましょう。コミュニティというのは単にお話するだけのコミュニティではありません。学校的だったり男文化だったりするとどうしてもお話ばかり、あと会議と、会議のための文書と。そうではなく、手技を昔ながらの囲んですると楽しいのではないかと思います。昔ながらの地方の生活というのはそうでしたよね。共同で農作業しながらおしゃべりをします。ピーチクパーチクやるわけです。それも楽しい息抜きになったりします。

他に今日持って参りましたのは、この野外手帳です。フィールドワークをするときに使います。お店からは購入しない、もしくはお店と一緒につながる、この2つの視点です。お店から手帳を購入しても良いのですが、もし購入しないで手帳作りたくなったとき、どうしますか。印刷屋さんに行くと、これは印刷会社に製本に行かなきゃいけないから、そこで版代が高くなるわけです。製本屋さんに行くのです。印刷さんと製本さんとは別の仕事です。百円ショップで手帳を売っていますよね。その百円ショップより安い手帳を作れないか考えたわけです。製本屋さんって電話帳で調べて、一軒一軒電話をしていったのです。残った紙でいいのだから、中身もそちらの会社の残り紙で用意してくれと、ただこれは後ろの方を厚紙にしてもらって、形も問わない、色もそろってなくて全くだすよ、と。というようにやってくれないかと頼んだら三軒は「そんな手間ばかりかかるから百円ショップのほうが安い」と断られました。そしたら四軒目のお宅では、おばあちゃんが「ああ、いいですよ」と言って半額の50円になりました。ただ一冊だけでは50円といっても無理です。ですからこれはある程度まとまったお金が必要で、百冊でやってくれないかといったら、百冊でも5000円ですよ。ですから生協の共同購入のようなものです。自分たちで交流の場で、皆さんがすべての技を、生産の術をもっているわけではないでしょう。生産現場と組み合わせましょう。まず自分たちの消費で楽しむことです。それで、他の人から喜ばれれば、では我々がブランドにして大人塾手帳というのを作ろうか、となります。それで50円で共同購入して70円とかで売るのも良いわけです。そういう発想など、いろいろ僕の方でも情報提供しますから皆さんの方でもどんどんアイディアが広がりそうですよ。そういうことで、ありとあらゆる衣食住の生活の問題や悩み、すべてを解決していけるような場になったら良いですね。

1年間のスケジュールは、あまりガチガチに決めてしまうことはしません。最初から決め

すぎてしまうと、この案のプランニングはあくまでも3月に行政として印刷に出して計画、皆さんの募集のためです。ですからこれはあくまでも案です。これからの皆さんの有り様によってどんどん変容していいのです。それでもまず案との流れとしては、まず今日は6月13日第1回目でガイダンス、後で自己紹介もしましょう。次回はモジュールです。2つの大きな束ねみたいな視点でこの部屋で同時進行できればと考えています。基本は5、6人くらいの小グループを作り、自由におしゃべりしながら手を動かしながら。それから、こういうふうに作っていきたいと感心をもたれるグループと、これを早速バザーのように小さなショップで売っていきたいというグループ。世の中のイメージでいいますと、工房的なことをやっていきたいグループとお店的なことをやっていきたいグループに分かれたらよいかと思います。どちらも世の中の仕組みの中では重要な役ですね。

また、人とつながるといった場合、お店というのは一番、だれでも気軽に入ることができるわけです。それを自分たちなりに小さなお店を作れるか、場合によってはどこかのお店と提携するのか、ひとりひとりのお店を作りそれを皆の場にしましょうというのがだしや楽校の考えです。7月から3回は具体的にいきます。先ほど「おしゃべり手芸の会」というのを横文字にしたらどうかということで、「ハンズインハンド」というふうに造語で名付けてみました。英語の辞書にハンズオンという言葉があります。それは手で触るということです。それからハンドインハンドという英語の熟語があります。これが手と手をつなぐという意味でして、それを両方組み合わせさせた造語になります。ただ単に飲食のおしゃべりではなく、皆で手を動かしながら作業をしていくということです。

その後阿佐ヶ谷の七夕まつりに何か挑戦しましょう。そういったこととなると、今度は現地のことを交渉とか相談とかが出てきます。夏辺りに何か、いずれにせよ社会に出てできることがあるのかどうなのかこれから調整していきます。これまでが夏までの第一ステージといった具合です。大きくは大学の前期後期のように、前半後半のように分けてやってみたらどうかと考えています。後半はさらにそれを練っていき、今度は杉並区外の関わりと交流、そして最後にもう一回これを振り返る。そして我々杉並の皆さん同士、もしくは杉並の区民生活の中でコミュニティ作りのやり方とか、生き方とか、考え方とか地域の中で活かしていったらいいのかなと思います。

谷原：ありがとうございました。それではこれで1時間がたちました。後半の1時間は皆さまがどこにお住まいで、どのようなことに興味をお持ちかというような交流をさせていただきたいと思います。良かったら、こちらの「とんがり山サブレ」をご賞味ください。

このとんがり山サブレを販売しているのが山のふもとにある新清堂というお菓子屋さんです。山形市内にあるのだけでも、おじいちゃんやおばあちゃんが皆でお茶飲みしている

お店なのです。日中は殆どデイケアセンターの役割をしていて、スーパーが合体しているようなところなんです。皆のコミュニティの場になっているのですね。富神山という三角の山があって、信仰のシンボルとなっています。そこで生まれ育ったご主人がデザインしたのですが、パッケージデザインは地域の人にとっては、こだわりがあるのです。

こういうコミュニティの考え方で、お互い様で何か良いことが出来たらいいねという考えがあるのです。これはひとつの提案ですけど、杉並区もどこかの地域と組んで大人塾でどこかのお菓子屋さんのパッケージを作ってみるということも出来ると思います。それはお菓子屋さんが自分のイメージだけで作るのとは全く違ったものが出来てくるのです。それこそが学習だったり、地域の街づくりに役立つことになると思います。どこにでもあるようなものなんでしょうけど、そこに住民の思い入れや物語を伝えることでより良いものを作っていくことになります。

我々はその物語を一般の企業がやっているマーケティングビジネス論理とは別の論理で、企業が勝手に物語を操作して、あれがブランドだとブランディング戦略をうって、我々はブランドのイメージで物を買うのですよね。でも我々は自分たちで別のマーケティング論理でコミュニティの中で作っていかうというのですよ。だって原料はみんな同じなんですから。

【受講者の自己紹介】

高円寺在住Oさん - 東日本対震災がきっかけで受講。モノ作りが好き。

堀ノ内在住Aさん - 夜のコミュニティクラスにも参加している。世界遺産めぐりが趣味。

荻窪在住Oさん - 昨年会社を退職。

西荻窪在住Tさん - 地域大学の講座を受講。コンピューターの仕事をしていたのでPCが得意。

宮前在住Oさん - 昨年も大人塾に参加。趣味は読書。

堀ノ内在住Hさん - すぎのき大学に参加して面白かったので、大人塾にも参加。退職した電気メーカーでは家電のデザインに携わっていた。

阿佐ヶ谷在住Sさん - 盆踊り歴5年。今年はフランスのベルサイユ宮殿にも踊りにいく。

方南町在住Iさん - 今年仕事をリタイア。独楽回しが得意。独楽の手作りもする。

松庵在住Iさん - 趣味は美術館、博物館めぐり。オペラ、ミュージカル観賞、スポーツ観戦にも行く。

阿佐ヶ谷在住Yさん - 南相馬から避難して杉並に。アロマセラピーと心のケアに興味あり。

堀ノ内在住Sさん - 洋裁の仕事をしていて。傾聴ボランティアや特別支援学級のサポー

トをするため地域大学で受講中。

Eさん - 児童館でボランティアをしている。

浜田山在住Iさん - 介護ボランティアをしている。環境問題に興味あり。

今川在住Wさん - 駄菓子屋楽校 3 年目。ベジタリアン料理に興味あり。布の収集もしている。

西荻窪在住Kさん - 写真が趣味。

荻窪在住Kさん - 駄菓子屋楽校 3 年目。布を使ってリメイクなどの手作りが趣味。畑もやり、ハーブにも興味あり。

荻窪在住Nさん - 駄菓子屋楽校 2 年目。地域コミュニティに積極的に関わりたい。考古学にも興味あり。

永福町在住Mさん - 駄菓子屋楽校 2 年目。小物作りが趣味。

下井草在住Sさん - パッチワークが趣味。

下高井戸在住Mさん - 好奇心旺盛。

南荻窪在住Iさん - ボランティアを始めている。駆け込み寺のようなスペースを作りたい。

Sさん - 昨年は大人塾の夜に参加しました。自宅を開放しておばちゃま女子会を企画中。